

10月20日 ヨハネによる福音書 17章 13～26節

「すべての人を一つにしてください」

今日の礼拝は、江刺教会の69周年を記念する礼拝でもあります。江刺教会は、その前身となる岩谷堂バプテスト教会の時代を含めて、とても長い時間この江刺の地で活動を続けています。それぞれの教会が建てられた時代には、この2024年までこの地で教会が続くと皆が考えていたのでしょうか。そして私たちもまた、今後70年このまま江刺教会が続くと考えているのでしょうか。

「この地で70年間続いた」ことは、「今後70年後も続く」という希望を私たちにもたらししてくれます。今私たちは、新しい教会員が与えられる希望もあり、新しい命に対する希望も持つことができます。神様に対して祈った、「江刺教会で礼拝する人を一人でも増し加えてください」という祈りが、確かに実現していることを感じています。それはやはり私たちが、神様のもとで一つの祈りを捧げ、神様の導きのままに様々なことをなし続けてきたからだと言っていると思います。そして私たちは今、過去の歴史からつながったこの今を歩み続け、新たな未来の希望を抱くことができます。

そのように、私たちは今日の説教題にもある、今日の個所の言葉でもある「すべての人を一つにしてください」という祈りが実現しつつあることを実感しています。しかし一方で、まだまだ「一つになることができていない」部分が多いことも感じるものです。だからこそ私たちは、今日の聖書個所の中でイエス様が祈った言葉、「すべての人を一つにしてください」という祈りをこれからも続けていく必要があるのだと思います。

私たちを一つに結び付けてくれる力は愛と信仰です。例えば同じキリスト教の中でも教派がありますので様々な立場や考え方がありますが、それらの教派が一致していないわけではありません。神様から注がれている愛のもと、神様への信仰は同じ一つのものを持っているのです。そして、その一つの信仰のもとで行われるすべての業によって、世の人々がイエス様のことを知り、イエス様を信じるという一つの同じ結末に向かうことが出来るのです。

このように、今日の個所でイエス様は世のことを愛してしまう人が世から取り去られることを願っているのではなく、イエス様を信じる全ての人々が、悪いものから守られることを望んで、そのために神様に祈ってくれていました。この祈りが「叶う」という点において、私たちは「すべての人は一つになることが出来る」という希望を持つことが出来るのです。

差別も争いもなくなるこの世界で、「すべての人を一つにしてください」と祈る私たちの祈りが、いつか叶う日が来るのです。イエス様が祈り、わたし達が祈るそのすべての祈りは、確かに神様に届いています。それが実現する時がいつなのかは、私たちにはわかりません。しかし、その実現のために私たちが用いられて行動をすることは出来るのです。

例えば今日のように、私たちはおいしいもののもとで、神様の言葉のもとで、喜びの心をもって一つになることができます。同じように、平和を愛する心や、神様を愛する心によって一つになることができるのです。その大きな希望を胸に、今週一週間の歩みを、これからの歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：ヨハネによる福音書 17 章 13～26 節

- 13:しかし、今、わたしはみもとに参ります。世にいる間に、これらのことを語るのは、わたしの喜びが彼らの内に満ちあふれるようになるためです。わたしは彼らに御言葉を伝えましたが、世は彼らを憎みました。わたしが世に属していないように、彼らも世に属していないからです。わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです。わたしが世に属していないように、彼らも世に属していないのです。真理によって、彼らを聖なる者としてください。あなたの御言葉は真理です。
- 18:わたしを世にお遣わしになったように、わたしも彼らを世に遣わしました。彼らのために、わたしは自分自身をささげます。彼らも、真理によってささげられた者となるためです。また、彼らのためだけでなく、彼らの言葉によってわたしを信じる人々のためにも、お願いします。父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。そうすれば、世は、あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じるようになります。あなたがくださった栄光を、わたしは彼らに与えました。わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためです。わたしが彼らの内におり、あなたがわたしの内におられるのは、彼らが完全に一つになるためです。こうして、あなたがわたしをお遣わしになったこと、また、わたしを愛しておられたように、彼らをも愛しておられたことを、世が知るようになります。父よ、わたしに与えてくださった人々を、わたしのいる所に、共におらせてください。それは、天地創造の前からわたしを愛して、与えてくださったわたしの栄光を、彼らに見せるためです。正しい父よ、世はあなたを知りませんが、わたしはあなたを知っており、この人々はあなたがわたしを遣わされたことを知っています。わたしは御名を彼らに知らせました。また、これからも知らせます。わたしに対するあなたの愛が彼らの内にあり、わたしも彼らの内にいるようになるためです。」